

## 第4章

# メインテーマと基本方針

### 1

## 計画のメインテーマ

2040年の将来ビジョンを実現するためには、全く新たな視点による施策に踏み込んでいく必要があります。

この計画では、SDGsの理念を活かし、20年後の将来ビジョンからバックカスティング<sup>※</sup>の手法により、将来ビジョン実現に向けた基本方針とこれから10年間に取り組むべき具体的な施策を示しています。

県産木材による自立分散型社会、すなわち資源と資金が林業で循環する社会を実現するために、まず成し遂げなくてはならない変革、それは「林業・木材産業の自立」です。

これまでの施策は、生産コストや森林資源の循環利用といった産業としての視点が小さく、公的管理による森林の公益的機能を維持・増進する施策を実施してきました。

森林資源の循環利用をより重視する施策への転換により、高コスト体質からの脱却、収益性の向上を図り、林業・木材産業の自立と森林の適正保全による強靱化との両立を実現します。

本計画の計画期間における目標となるメインテーマには「**林業・木材産業の自立**」を掲げ、その達成に向けた3つの基本方針のもと、新しい時代にふさわしい自立した林業に生まれ変わるとともに、自立した林業に支えられた「県産木材による自立分散型社会の実現」に官民共創で取り組みます。

## 県産木材による自立分散型社会の実現

## 林業・木材産業の自立

### 3つの基本方針と7つの施策の柱

#### 基本方針Ⅰ 林業の競争力強化

- 柱1 木材流通・加工体制の基盤強化と需要拡大
- 柱2 林業システムの改革
- 柱3 きのこと産業等の再生

#### 基本方針Ⅱ 森林の新たな価値の創出

- 柱4 新たな森林資源利用
- 柱5 「森林ビジネス」の創出

#### 基本方針Ⅲ 森林の強靱化

- 柱6 防災・減災
- 柱7 災害への適応力向上

2

計画の基本方針と施策体系

基本方針Ⅰ 林業の競争力強化

産業構造改革による高コスト体質からの脱却と、木材流通・加工体制の基盤強化により、林業産出額を増加させ、産業としての自立を実現します。

施策の柱

1 木材流通・加工体制の基盤強化と需要拡大

- (1) 木材流通・加工構造の改革
- (2) 新たな販路・需要の創出

2 林業システムの改革

- (1) 低コスト林業システムの導入
- (2) デジタル化・自動化の推進
- (3) 人材の確保・定着

3 きのこと産業等の再生

- (1) 安全・安心なきのこの生産力強化
- (2) 新たな需要創出と収益性向上

関連するSDGs



新・総合計画 柱V  
地域経済循環の形成

【5つのゼロ宣言2】  
温室効果ガス排出量「ゼロ」

【5つのゼロ宣言4】  
プラスチックごみ「ゼロ」

基本方針Ⅱ 森林の新たな価値の創出

森林の価値を見つめ直すことにより、社会情勢の変化や森林への多様なニーズに対応した森林の新たな価値を創出します。

施策の柱

1 新たな森林資源利用

- (1) 地域内資源・エネルギー自給
- (2) 新素材・未利用資源活用

2 「森林ビジネス」の創出

- (1) 「森林ビジネス」の創出
- (2) 森林空間利用拠点の整備・強化
- (3) 県民参加推進

関連するSDGs



新・総合計画 柱VI  
官民共創コミュニティの育成

【5つのゼロ宣言2】  
温室効果ガス排出量「ゼロ」

【5つのゼロ宣言3】  
災害時の停電「ゼロ」

## 基本方針Ⅲ 森林の強靱化

利根川水系の「上流社会」としての責任を果たすとともに、県民の生命と財産を守るため、林業経営を通じた森林整備を推進するほか、条件不利な森林については公的管理により整備し、災害の防止や水源の涵養、地球温暖化防止等の公益的機能が高度に発揮される森林づくりを推進します。

### 施策の柱

#### 1 防災・減災

- (1) 山地災害の防止・被害軽減
- (2) 森林の健全化促進と適正な保全

#### 2 災害への適応力向上

- (1) 新たな森林管理手法の構築
- (2) インフラ施設周辺森林の整備
- (3) 県民防災意識の向上

### 関連するSDGs



### 新・総合計画 柱Ⅱ 災害レジリエンスNo.1の実現

【5つのゼロ宣言1】  
自然災害による死者「ゼロ」

【5つのゼロ宣言2】  
温室効果ガス排出量「ゼロ」

【5つのゼロ宣言4】  
プラスチックごみ「ゼロ」

## 3

## 林業・木材産業の自立に向けた改革

本計画の3つの基本方針に沿った施策によって実現を目指す、林業・木材産業の改革は次の2つです。

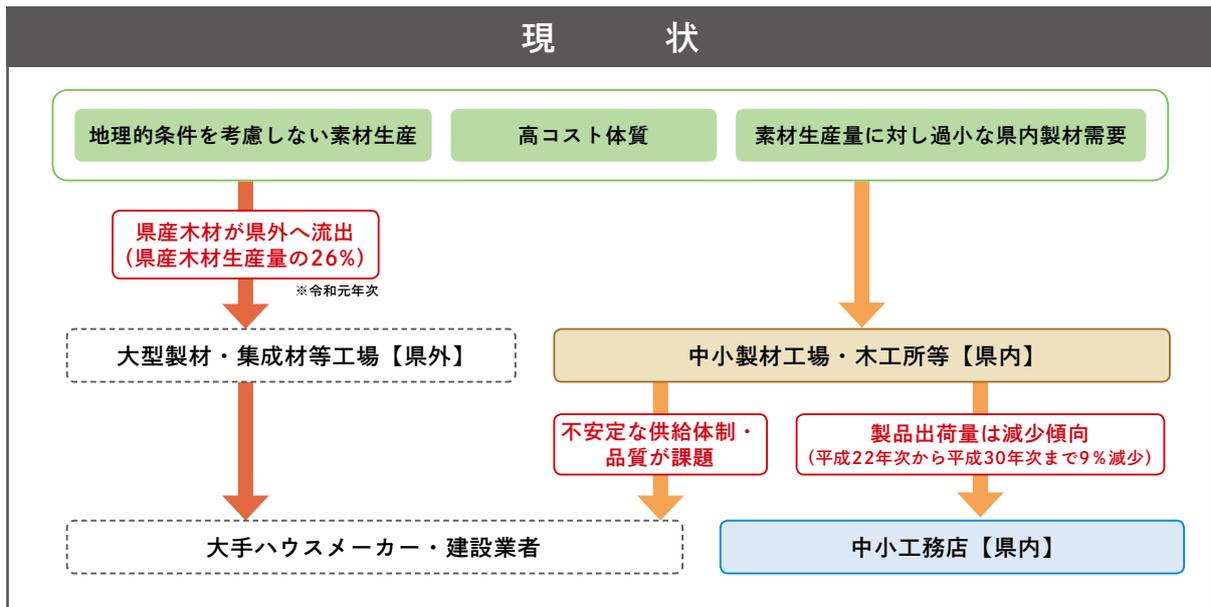
**改革1 大胆な構造改革により産業としての自立を実現**

- ◆ 木材の需要と供給をプロダクトアウト<sup>\*</sup>思考からマーケットイン<sup>\*</sup>思考に変え、供給重視から需要重視の産業構造へ転換します。
- ◆ 森林資源情報<sup>\*</sup>のデジタル化・高度化によるリアルタイムでの立木の在庫管理、木材需給マッチングシステム<sup>\*</sup>の構築により原木の安定供給体制を確立します。
- ◆ 大型製材工場等の誘致により大ロット、低コスト型の産業構造を構築し、県内の木材需要を拡大します。
- ◆ 既存の製材工場の特徴を活かした加工体制の強化により、少ロット、高付加価値型の産業構造に転換し、多様な木製品を供給します。

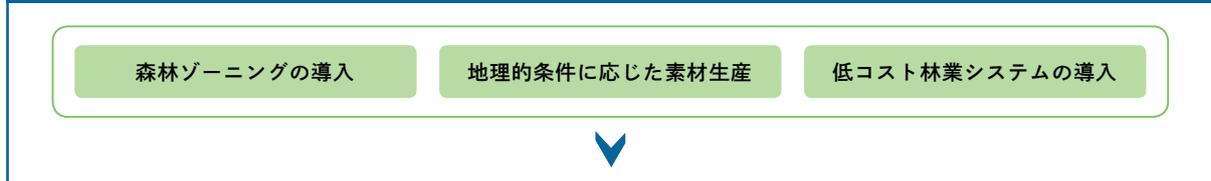
**改革2 高コスト体質からの脱却と収益性の向上**

- ◆ デジタル化・高度化された森林資源情報を活用し、森林の特性・地理的条件に応じた森林ゾーニングと新たな林業システム<sup>\*</sup>を導入します。
- ◆ 森林ゾーニングに応じた効率的な施業により、高コスト体質から脱却し、収益性の向上を図ります。
- ◆ 「短伐期林業<sup>\*</sup>（緩傾斜地：皆伐・再造林）」による保育経費の縮減、効率的な丸太の生産により、木材の循環利用を実現します。
- ◆ 「長伐期林業<sup>\*</sup>（急傾斜地：非皆伐）」による針広混交林<sup>\*</sup>化、大径木化を進め、高付加価値丸太を生産し高収益を実現します。
- ◆ 森林ゾーニングによる森林整備方針を策定し、森林を適正に保全・管理します。

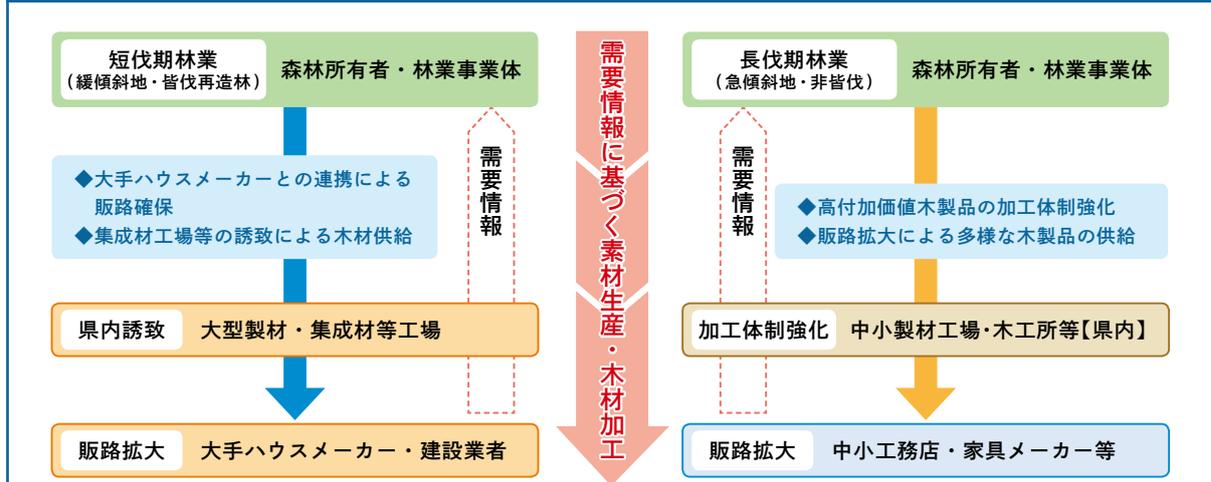
## 改革1 大胆な構造改革により産業としての自立を実現



## 改革の方向性 ～供給重視から需要重視の産業構造へ転換～

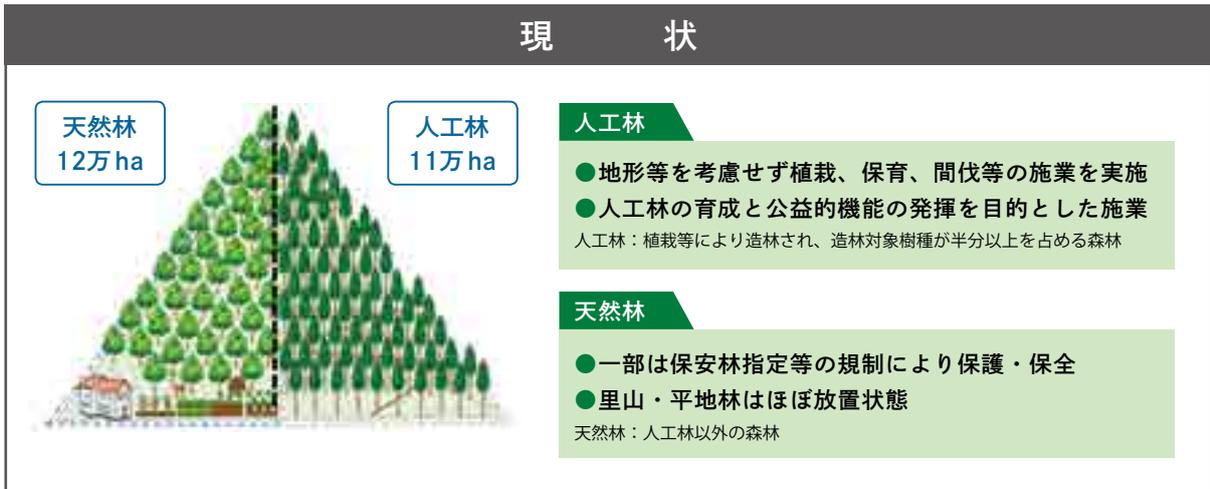


## 目指すべき姿

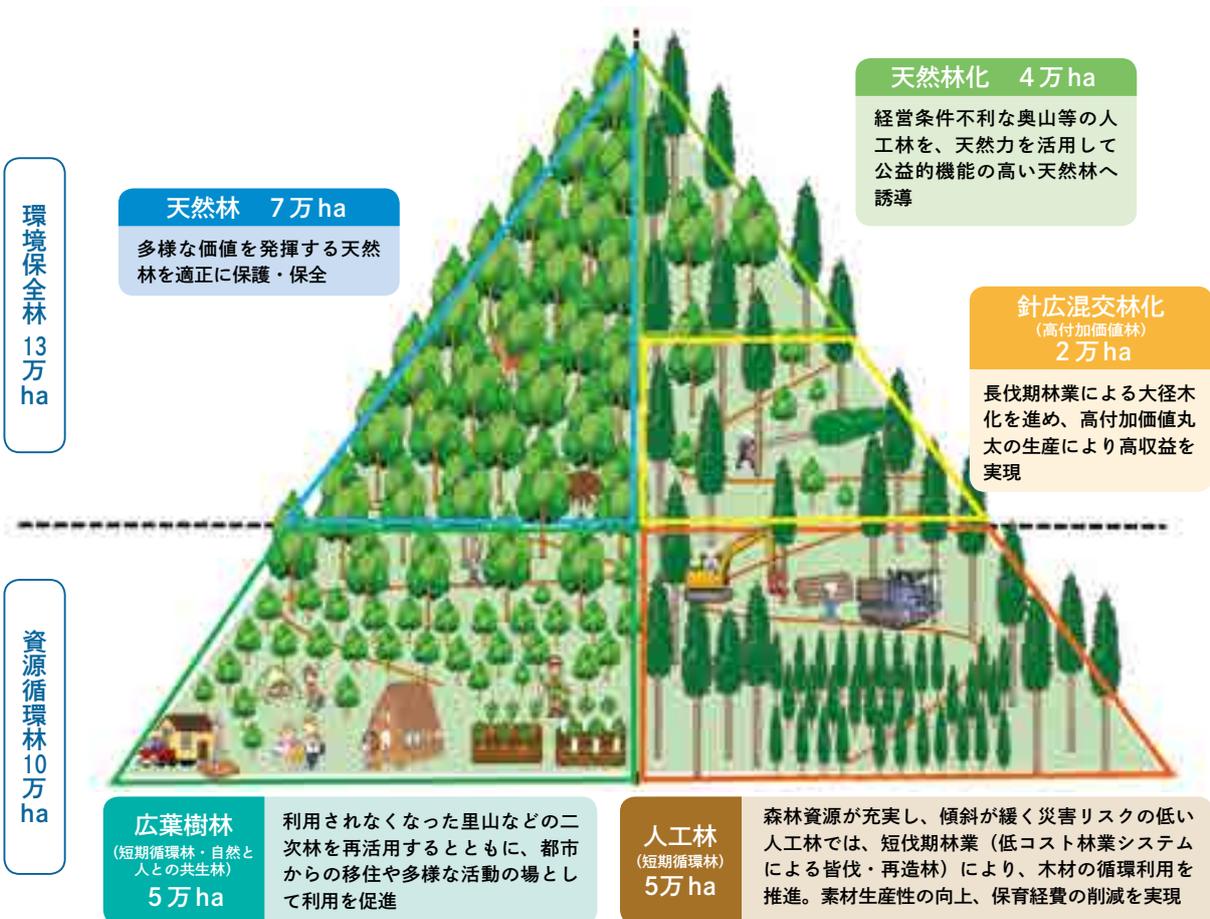


- ◆低コスト林業システムの導入・木材加工体制の強化により、産業構造を転換
- ◆県内での森林資源と資金の循環により、木材産業産出額・林業産出額を増加
- ◆森林の公益的機能は、林業経営による森林整備により向上。公的管理による関与を低減

現 状



森林の特性・地理的条件に応じた森林ゾーニングと新たな林業システムの導入



高コスト体質からの脱却、収益性の向上により 林業・木材産業の自立と森林の適正保全による強靱化を両立

## 〈新たな森林ゾーニング〉

森林をゾーニングする手法は従前より行われているものですが、本計画で示す森林ゾーニングは、群馬県の森林が全体として利用と保全のバランスを保ちながら、低コストかつ高収益の林業を実現していく視点から、それぞれの区域の特性にあわせた森林整備方針・新たな林業システムをイメージとして示すものです。

また、区分の基礎となる森林資源の把握には、デジタル技術を活用して高度化した森林資源情報を利用していく点がこれまでとは大きく異なります。

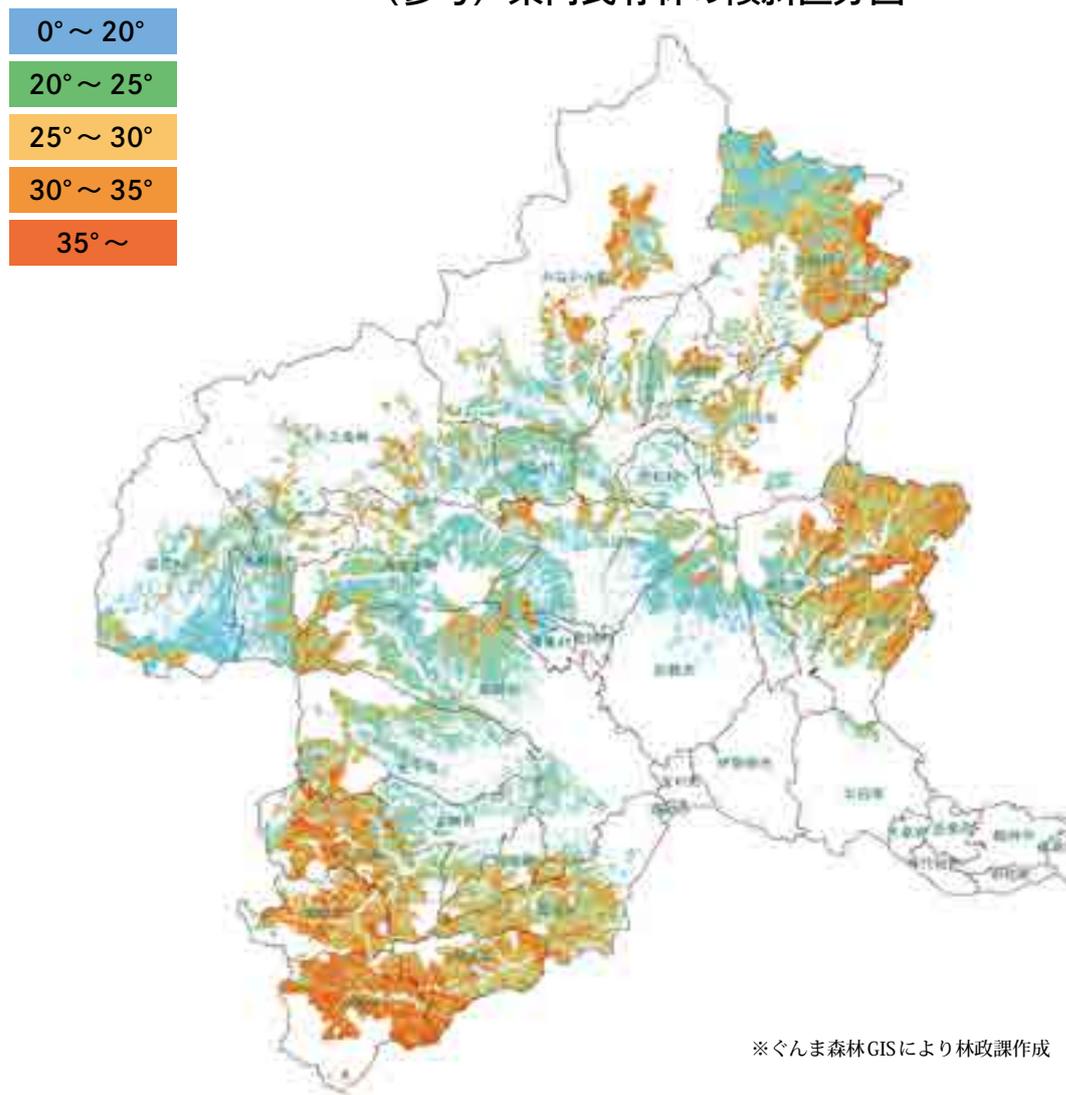
新たな視点による森林ゾーニングでは、森林の特性や傾斜等の地理的条件に基づいて、森林を大きく5つに区分して、森林整備の考え方を整理します。

現実の森林の状況はとても多様であり、同じ森林ゾーニング区分であっても具体的な目標林型<sup>※</sup>や施業方法は一律ではありません。

デジタル技術を活用して高度化した森林資源情報を基礎とした森林ゾーニング区分により整備方針を決定し、個々の森林の特性に応じた施業の実施につなげていきます。

なお、森林ゾーニング区分や整備方針は、森林資源情報の高度化、デジタル技術や施業技術の進歩等に合わせて、随時見直しを行います。

(参考) 県内民有林の傾斜区分図



## 〈森林ゾーニング区分と新たな林業システム〉

### ①環境保全林(天然林<sup>\*</sup>)

多様性豊かな天然林は、公益的機能の維持のため、保安林<sup>\*</sup>指定等により適正に保護・保全します。

なお、木材資源利用を目的とした施業は、既設の路網がある場合などに、択伐等による限定的な実施を想定しています。

### ②環境保全林(天然林化)

人工林であっても、傾斜が急で施業条件が厳しく、路網の整備も難しいことから、林業経営には条件不利であり、皆伐・再造林を繰り返して持続的に森林資源を利用していくことが困難な森林です。

荒廃が進んで公益的機能の低下が懸念されることから、強度間伐<sup>\*</sup>を基本とした公的な森林管理により、針広混交林・広葉樹林(あるいは在来の針葉樹林)へ誘導を図ります。天然力を活用した更新サイクルへ誘導することによって、将来的な管理コストの低減と多様性の高い森林づくりを両立させていきます。

### ③環境保全林(針広混交林化：高付加価値林)

②の天然林化区域同様に、皆伐・再造林による木材生産には条件不利な人工林ですが、傾斜や路網の状況等から木材の搬出が可能であり、かつ、高付加価値な木材の生産が見込める森林です。

この区域では、皆伐は行わず、間伐等と天然更新<sup>\*</sup>による長伐期林業の導入を基本とし、再造林コストの削減と多様で高付加価値な木材生産を実現し、将来的には針広混交林等へ誘導していきます。

獣害等により、天然更新が見込めない場合は、被害防止対策や補植等を最小限実施します。

### ④資源循環林(人工林：短期循環林)

傾斜が緩く、森林資源や路網が充実しているなどの経営条件の整った人工林で木材生産に適した森林です。

森林資源の循環利用・持続可能な林業経営を確立していく上で中心的な区域であり、災害発生リスクにも配慮しながら、好条件を活かして、短期間での皆伐による積極的な資源利用と確実な再造林を集約的に実施します。

現在収穫期を迎えている森林資源の活用の観点から、集約化を前提として、計画的かつ高密度な路網整備とIoT<sup>\*</sup>技術を活用した高性能林業機械<sup>\*</sup>の導入などにより、生産性の高い木材生産システムを構築し、収益性向上を図ります。

また、再造林には初期成長の早い樹種や品種の苗木の活用、植栽密度、下刈等の保育方法の一体的な見直しによる短伐期林業への転換を図り、施業の低コスト化を実現します。

これらの取組により、低コスト林業システム<sup>\*</sup>を確立していきます。

なお、花粉症対策に資するスギ苗木<sup>\*</sup>等を積極的に活用し、花粉発生源対策にも取り組みます。

### ⑤資源循環林（広葉樹林：短期循環林・自然と人との共生林）

従来、施業の対象としてこなかった天然林の一部やかつて利用されていた里山など、比較的集落に近く傾斜の緩い広葉樹等の二次林<sup>\*</sup>で、木材や多様な林産物を循環して生産する森林です。

この区域では、チップ・きのこ原木等の資源として森林を活用・再生していくため、短期間での皆伐・萌芽更新<sup>\*</sup>（天然更新）を基本とし、再造林のコストを掛けずに森林資源の有効活用を推進します。

また、都市住民の移住や多様な活動の場として森林空間の利用を促進するとともに、これまで価値が見いだされていなかった新たな森林資源を、異業種やデジタル技術等とのコラボレーションで活用することにより、新たな森林の価値を創出し、積極的な利用による保全と自然と人との共生を推進します。

現状	森林ゾーニング	新たな林業システム
天然林	天然林 (多様性豊かな天然林)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●保安林指定等による保護・保全</li> <li>●資源利用は、既存路網の活用による択伐等に限定</li> </ul>
	広葉樹林 (里山等の二次林)	<b>短期循環林・自然と人との共生林</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●木材や林産物を循環して生産する森林</li> <li>●短期間での皆伐・萌芽更新を基本</li> <li>●森林空間利用、新たな資源利用の場としても活用</li> </ul>
人工林	人工林 (傾斜が緩く、森林資源や路網が充実している森林)	<b>短期循環林</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●森林資源の循環利用と持続可能な林業経営を担う森林</li> <li>●短伐期林業（低コスト林業システムの導入による短期間での皆伐と再造林）を実施</li> <li>●集約化、高密度路網、高性能林業機械による生産性の向上</li> <li>●初期成長の早い苗木の活用等による保育コストの削減</li> </ul>
	針広混交林化 (傾斜が急で施業条件は厳しいが、搬出間伐等は可能な森林)	<b>高付加価値林</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●長伐期林業（間伐等と天然更新）による針広混交林化</li> <li>●皆伐をしないことで再造林コストを削減</li> <li>●大径木化による多様で高付加価値な木材生産</li> </ul>
	天然林化 (傾斜が急で施業条件は厳しく、路網整備は困難な森林)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●強度間伐による天然林化</li> <li>●針広混交林・広葉樹林、在来の針葉樹林へ誘導</li> <li>●天然力を活用した更新</li> <li>●将来の管理コスト低減と多様性の高い森林づくり</li> </ul>